

2023年11月27日

各位

ENEOS株式会社

CO₂フリー水素ステーションからパイプラインで街に水素を供給する実証事業が始動 ～「裾野市CO₂フリー水素ステーションを活用したパイプライン水素供給システムの開発」～ <NEDO事業採択>

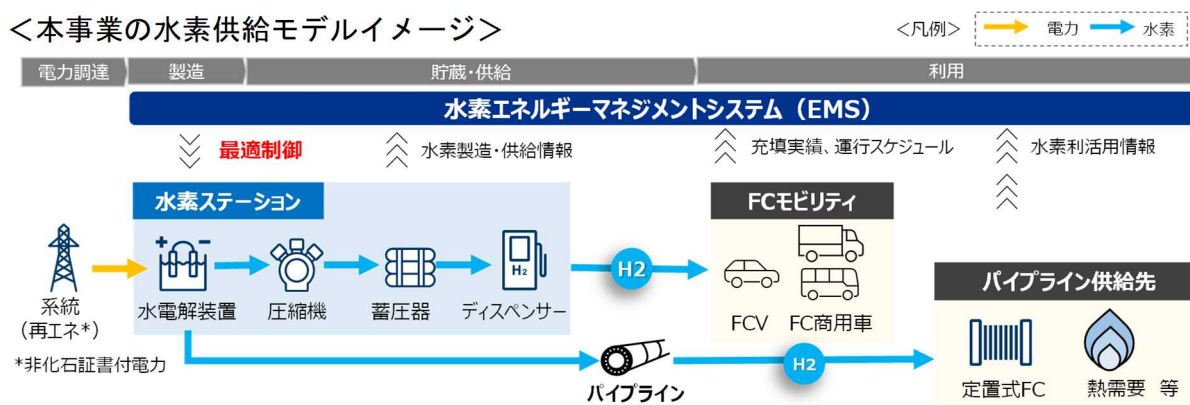
当社（社長：齊藤 猛）は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下、NEDO）が公募した「水素社会構築技術開発事業／地域水素利活用技術開発」に、「裾野市CO₂フリー水素ステーションを活用したパイプライン水素供給システムの開発」（以下、本事業）を提案し、採択されましたので、お知らせいたします。

当社は脱炭素に向けた本格的な水素の大量消費社会を見据えて、水素の利活用とともに地域活性化を目指す水素の地産地消事業に取り組んでおります。今般その一環として、CO₂フリー水素ステーションを活用し、燃料電池車（以下、FCV）のみならず地域の水素需要に対して水素を供給する実証事業を開始します。

本事業では、静岡県裾野市において、当社の水素ステーション^{※1}から街^{※2}に設置された燃料電池等の水素利用機器にパイプラインで水素を供給します。また、パイプライン供給先の水素利活用情報を活用し、FCVへの水素供給とパイプラインによる水素供給を効率化する水素エネルギーマネジメントシステム（EMS）^{※3}を開発します。

当社は、グループの長期ビジョンにおいて「エネルギー・素材の安定供給」と「カーボンニュートラル社会の実現」との両立への挑戦を掲げ、水素事業はその実現に資するものとして取り組みを加速しています。地域での水素利活用が「明日のあたり前」となるように、本事業を通じ水素ステーションを活用した効率的なパイプライン水素供給システムを開発することで、我が国における水素社会の早期実現に貢献してまいります。

<本事業の水素供給モデルイメージ>



- ※1 2025年開所（予定）に向け建設中。
- ※2 トヨタ自動車株式会社が建設を進める Woven City（ウーブン・シティ）へ水素供給予定。同社とは共同開発契約を締結し、Woven Cityにおける水素利活用の取り組みを推進中。
2022年3月23日公表「[ENEOS、トヨタ、ウーブン・プラネット、Woven Cityを起点としたCO2フリー水素の製造と利用を共同で推進](#)」
- ※3 水素EMSは電力需要や水素需要などに応じて水素製造を最適化するシステム。当社のCO2フリー水素ステーションにて運用中。
[エネルギーマネジメント技術](#) | [低炭素技術研究](#) | [ENEOS](#)

<本事業の概要>

採択テーマ	裾野市CO2フリー水素ステーションを活用したパイプライン水素供給システムの開発
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 水素エネルギーマネジメントシステム（水素EMS）の開発 2. 裾野市水素パイプライン実証設備の安全性評価および安全対策の検討 3. 水素パイプライン実証設備の建設 4. 水素供給実証 5. CO2フリー水素ステーションを活用した水素供給事業モデル検討
事業期間	2023年度～2025年度

以上